

BT FIELD

2023
Summer
No.1

駅の「あたりまえ」を
守り続ける





BT Front Line

駅の「あたりまえ」を守り続ける

——維持管理の技術革新で、さらなるお客さま貢献へ——

鉄道開業から150年。JR東日本エリアの駅施設もさまざまな歴史を重ね、その状態は千差万別です。これまで、これからも、駅の「安全・安心」を「あたりまえ」とするために——ビルテック最前線における「駅維持管理業務」の今をご紹介します。

「あたりまえ」を全力で守る

私たちビルテックは、主に「施設管理」「エネルギーマネジメント」の観点から駅の維持管理業務を担っています。

施設管理では、まず「予防保全」に注力。日々の業務で不具合が起きそうな箇所を事前に検知することで、駅を利用されるお客さまや駅で働く皆さまにご不便が及ぶことを未然に防いでいます。

例えば、JR山手線を中心とした全78駅の維持管理を担う東京支店では、建築基準法や消防法に基づく「法定点

検」や「多客期前検査」などを、各系統（建築、機械、電力、通信）で計画的に実施。気になる箇所の情報はシステムを超えて共有し、担当チームが応援に入るなど、専門性と連携プレーで事故の未然防止に努めています。通常の検査では分からない場所も、当社の検査センターが「人の感性のみに頼らない」障害予防調査を実施。これらの取り組みから課題を抽出し、中・長期的な視点で改修工事をご提案・実施することもあります。

時には設備故障が発生することもあります。その際は迅速な「故障対応」に尽力。当社のカスタマーセンター



①東京駅丸の内駅舎の外壁を調査。見て、触って、予兆を検知します ②③④東京駅丸の内南口改札のコンコース。ドームの劣化状態も定期的に調査
⑤東京支店 東京駅設備管理センター 三橋副所長 ⑥⑦⑧日々の業務で得られるデータと気づきが提案の種に（東京駅設備管理センターにて）

が全エリアの障害受付を24時間体制で行い、支店と協力会社の「チームビルテック」で復旧作業を急ぎます。

予防保全や故障対応の品質を維持・向上させるため、支店ではベテランと若手がペアを組んで行動するほか、研修施設「FMTEC」での集合研修、系統別競技会などを通じてスキルの底上げも図っています。

ゼロカーボンの実現へ、省エネに尽力

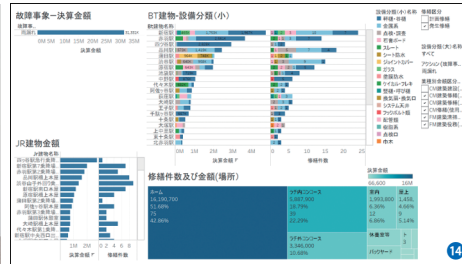
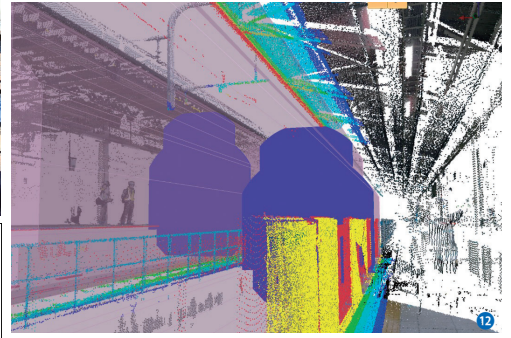
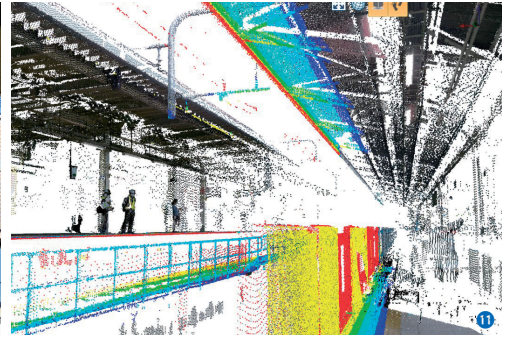
JR東日本グループとして「ゼロカーボン・チャレンジ2050」達成に向けた取り組みを進める中、駅のエネルギー管理も私たちビルテックの重要な使命。日々の業務で得られる豊富なデータを独自の視点で分析し、設備を熟知する強みを生かした省エネ提案を行っています。

例えば2020年度、東京駅冷凍機の運転制御見直しにより省エネにつなげた事例をご紹介します。

東京駅の電気室の空調をコントロールする設備では、従来は外から取り込んだ空気を冷却して室内に供給するとともに、室内の空気を屋外へ排出する「外調機方式」をとっていました。しかしこの方式では、せっかく冷却した空気を捨ててしまうことに。そこで、設備を維持管理する東京支店東京駅設備管理センターは、①レタダクトを設置し、冷却した空気を空調機に戻すことで、空気冷却のために使用するエネルギーを削減、②定速運転していたモーターをインバーター化することで、モーターの出力を抑制、という「合わせ技」をご提案・実施。CO₂103t/年（電力21万2000kWh/年）の削減を成し遂げました。

この事例を担当した三橋誠副所長は言います。

「スタンダードとされる方法でも、問題意識を持って視点を変えてみると、改善案が浮かぶことがあります。現場では、ルーティンの中にある気づきを何より大切にしています」



9 10 3D点群レーザースキャナーでの計測風景
11 12 3D点群レーザースキャナーで計測した駅の点群データ 13 東京支店 中野さん 14 データ可視化ツール「Tableau」を活用し、お客さまが「一目で分かる」ご提案を工夫

技術革新で、変化を先取りしたご提案へ

社会が大きく変わる中、お客さまに「時代の変化を先取りしたサービス」をご提供するため、私たちビルテックが現在力を入れているのは「技術革新」。労働人口の減少、設備の老朽化、予算削減など、さまざまな課題と直面する中で生産性向上を図りつつ、サービス品質を維持するため、ICT、IoTを積極的に活用しています。

その一つとして、東京支店で開発を進めているのが「建築限界測定*における3D点群レーザースキャナーの活用」です。

3D点群レーザースキャナーを用いて計測したデータはX・Y・Z座標の情報を持つ点の集合体（点群データ）に変換できます。この座標情報を使って、建築限界測定を実施するのが、開発中の技術です。測定に必要なデータ処理を簡略化するソフトウェアを開発中で、1年後には実用化の見込みです。開発担当の東京支店・中野淳子さんは「新技術の開発・導入により、業務効率や精度が向上し、お客さまに喜んでいただければ、こんなにうれしいことはありません」と、新たな挑戦を楽しんでいます。

本店が中心となり、現場で蓄積されたデータの利活用が容易となる環境構築にも取り組んでいます。例えば、修

繕等の情報を蓄積した「維持管理クラウド」と、独自のデータ利活用プラットフォーム「F/MaaS」を接続。TBM（定期メンテナンス）からCBM（状態把握によるメンテナンス）への質向上を目指しています。また、データは可視化ツール「Tableau」を用いて見える化。お客さまへの分かりやすいご提案も心掛けています。

*

150年の歴史を持つ鉄道。戦前から使い続けられているものから最新技術を駆使したもので、駅施設も「過去から現在、未来へ」という時間軸の中に存在しています。そうした歴史をしっかりと理解し、30年以上にわたる駅維持管理で積み重ねてきた「ビッグデータ」と現場で培ってきた「ノウハウ」を活用できることこそ、ビルテックの強み。

- 「駅は、街の発展の中心」
- 「ご利用になるお客さまのために」
- 「それがたとえお一人であったとしても」
- 「何よりも迅速に、柔軟に」
- 「地道に、愚直に」

ビルテック社員のこうした言葉の背後には、「駅の安全・安心は、私たちが支え続ける」という強い矜持きょうじがあります。さらなる「技術革新」で、私たちはこれからも、駅の「あたりまえ」を支えていきます。

*建築限界測定：列車運行の安全性確保のため、障害となり得る建築物等の設置不可範囲が守られているか否かを、定期的に測定する業務。

ドローン技術の活用

障害調査でさまざまな成果
グループ新設で活用を強化

安全性の確保およびコストダウンの観点から、当社ではファシリティマネジメント事業におけるドローン活用を推進しており、すでにいくつかの実績を上げています。

東京支店では、JR東日本さまから「変電所にハトが侵入し、困っている」というご相談を受け、ドローンによる調査を実施。法規制が厳しい東京都の屋外でのドローン飛行実施により、屋根には異常がないことを確認できました。また、電車車庫で雨漏りが発生した際は、ドローン飛行で原因を特定。電車車庫軒樋部に堆積物があることや、漏水起因となる屋根の劣化を確認することができました。どちらの調査も通常は足場の設置が必要ですが、ドローン活用により、コストも大きく削減しました。

2023年1月には、本店内にドローンの専門部隊である「技術本部技術部ドローングループ」も新設。本店・支店が連携し、さらなる活用に取り組んでいます。



変電所でドローン調査を担当した、東京支店・白井啓一朗さん（左）、坂井慶哉さん



ドローンで撮影した映像

変電所内でドローンを飛ばし、屋根裏を調査

JR事業本部 JR事業部 検査センター

「人の感性のみに頼らない調査」で駅の安全・安心を守る

当社維持管理業務の基本は「予防保全」。各支店では日頃から検査担当社員がこれまでに養った経験とノウハウにより、定期的な建物検査を行っています。

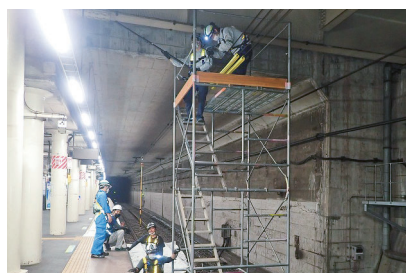
豊富な知見に裏付けられた検査手法ですが、一方で、人の感性には限界もあります。そこで重視するのが「障害予防調査」。目視では把握が困難な高所や隠蔽部の劣化状況について、仮設足場や高所作業車、部分解体等の手段を用いて触診や打診、下地確認等を行い、重大事象の未然防止につなげています。

この役割を担うのが、検査センターです。センターではウェアラブルカメラやファイバースコープ、赤外線カメラ等、特殊検査機器も積極的に活用。お客さまにけがをさせる恐れのある箇所、列車運行に支障を来す恐れのある箇所、雨漏りの恐れのある箇所を重点的に調査します。2022年度は、首都圏エリアを対象に23駅の障害予防調査を行いました。

検査センターの技術は、ビルテックの技術の裏付けであり、誇り——安全に、安心して駅をご利用いただけるよう、これからも全力で予防保全に取り組んでいきます。



高所作業車を使った外壁調査



足場を設置した線路上空部分の調査



外壁上部パラペット部分の特殊検査機器（ファイバースコープ）による劣化状況調査

アトレのこれから そして、ビルテックへの期待

お客様の期待を「超えた」ビルテックとなるために——

このコーナーでは、お客さまとの対話を通して当社の進むべき道を探ります。

第1回は、株式会社アトレ取締役会長の一ノ瀬 俊郎さまと、阿部社長のクロストーク。

駅ビルを取り巻く事業環境が大きく変化する中で「ビルテックに期待すること」など、

忌憚^{きたん}ないご意見を頂戴しました。



CROSS TALK

AKIRA ABE

JR東日本ビルテック株式会社
代表取締役社長
阿部 亮

TOSHIRO ICHINOSE

株式会社アトレ
取締役会長
一ノ瀬 俊郎さま

各階層での 活発なコミュニケーション、 率直な意見交換に感謝しています



市場環境は大きく変化 両社一体となることが不可欠

阿部 当社はアトレさまから受託している施設管理業務を、16事業所・約40人体制で行っています。日頃から経営陣、管理職、担当者の各階層で活発なコミュニケーションを取ることができており、私たちからはかなり率直な意見もお伝えしていますが、いつも真摯に耳を傾けてくださり、ありがたく感じています。このような関係だからこそ、今日は率直なご意見をたっぷりお聞きしたいと考えています。

まずは駅ビル事業を取り巻く現在の環境について、一ノ瀬会長のご認識を聞かせていただけますか。

一ノ瀬 コロナ禍からの回復基調にある中、駅ビルなどの商業施設はいかにマーケットの変化を捉え、対応していくか——それが、われわれの抱える一番の課題感です。

ビルテックとアトレは、どちらも1990年にJR東日本により設立されました。私は「兄弟会社」だと考えています。そして、アトレの建物はわれわれの営業部が管理しているわけではありません。「兄弟会社」の御社に統括管理をお願いし、御社のパートナー企業にも参画いただきながら、商業施設

としての機能を維持しています。マーケット変化への対応も、われわれだけでは絶対にできません。皆さんから知恵や提案を頂き、一体となって変えていくことが、何より大切だと考えています。

阿部 そうしたお考えで取り組まれる中、当社に対する評価はどのようなものでしょうか。

一ノ瀬 ビルテック社員のアトレ出向など、継続的な人材交流が行われていますが、これは非常にありがたいですね。交流を通じて駅ビル特有のニーズに対する理解を深めていただき、さまざまなご提案も頂いています。

阿部 現在は建設部門と駅ビル管理部門の社員2人が御社に出向し、各種工事の計画作成や発注業務、業務委託契約の締結手続きや施設管理の業務効率化などを担当させていただいています。

ビルテックの仕事は、いわば「オーナー代行」。アトレさまのもとで経験させていただくことが、サービス品質向上に直結すると考えています。例えば、アトレ亀戸店で導入いただいた「無人受付システム」。これはアトレさまの出向経験者が、当時の経験を生かしてご提案したものです。

一ノ瀬 コロナ禍以前に実施していただいていたアトレ社



継続的な人材交流を通じ、 相互理解が深まっています

CROSS TALK

TOSHIRO ICHINOSE AKIRA ABE



員の施設管理研修も、再開したいと考えています。研修施設「FMTEC」では実際の設備に触れ、体感することができますね。皮膚感覚として施設管理の仕事を理解することは大切だと考えています。

阿部 「FMTEC」は、同業他社の研修施設と比較しても充実度が高いと自負しています。普段はビル管理の専門知識を持つビルテック社員育成の場としてフル稼働しています。

データと知見を駆使して 経営判断のサポートを

阿部 先ほど「マーケットの変化を捉えた提案を」とのお話がありましたが、当社では現在、データを活用したスマートメンテナンスに力を入れています。また、エネルギーマネジメントをサポートする専門部隊もあります。自社開発のデータ利活用プラットフォーム「F/MaaS」や、独自のビルマネジメントシステム「BT-SAS」なども活用しながら、コストダウンや省エネをはじめ、これまで以上に踏み込んだ、「先回り」の提案を行っていきたいと考えています。

一ノ瀬 各館の施設・設備は状況がさまざまです。老朽取り替えの適切なタイミングについて、データを基に中・長

期的なシミュレーションを示して提案できることが、ビルテックの最大の強みではないでしょうか。その提案が、経営判断を左右することもあります。あえて、アトレ側のニーズを申し上げれば、ベストのプランだけでなくベターなプランを複数提案いただくと、経営判断の幅が広がります。専門家ならではの知恵に期待したいですね。

受・発注の関係から 一步踏み出した統括管理へ

阿部 ビルテックには、サービス品質向上の取り組みとして、①事業所長や協力会社現場長がセルフチェックを行う「業務確認シート」、②本店社員が業務品質チェックとアドバイスを行う「本店インスペクション」があります。この取り組みについては、どのように感じていらっしゃいますか。

一ノ瀬 このような取り組みを通じてお互いの目線をそろえていくことが大切ですね。

JR東日本グループとしてお客さまにより高い価値を提供するために、もう一つ、私が大切だと考えているのは、いわゆる「受・発注の関係」から一步踏み出すことです。アトレは「プロデュース型運営」で、プレーヤーはテナント



「JR東日本グループならではのSC」を、
共につくり上げていきましょう

「真のパートナー」として、
たゆまぬ努力を続けます





であり、ご利用になるお客さま。プレーヤーが輝ける「お買い物」、お客さまとの「真実の瞬間」を生み出す舞台装置は、われわれと御社が一体となってつくるものです。

阿部 私たちは「オーナー代行」として、来店されるお客さまを「自分たちのお客さま」と認識しているつもりですが、「共同事業者として統括管理を行うのだ」という意識を、より強く持つ必要があるのかもしれないね。

JR東日本グループならではの価値創造へ向けて

一ノ瀬 またアトレでは、生産性向上のため「エリア管理」に踏み出したところだ。これも、当社だけでは実現できません。取手店と土浦店では、エリア単位の統括管理をお願いしていますが、互いに知恵を出し合いながら、より効率的なスキームをつくっていききたいですね。

阿部 例えばオーナーの異なるエキュート立川とグランデュオ立川を1事業所で管理するなど、ビルテックにはエリアマネジメントの実績もあります。統括管理の効率化とともに、コストダウンにも資する取り組みですので、われわれとしても積極的に対応していく考えです。

アトレさまの今後の夢・目標についても、この機会にぜひ聞かせていただけますか。

一ノ瀬 現在、当社では複数の新規開発案件を抱えています。今は「つくればOK」という時代ではありません。競合他社との差異化が求められる中、開発スタイルも多種多様となっています。商業施設を取り巻く環境が変わっても、「JR東日本グループならではのショッピングセンター（SC）」をつくり、輝ける「お買い物」、そして「真実の瞬間」を提供していきたい——ビルテックの皆さんには、専門家らしい知見の提供を、今後も期待しています。

また、リアルでお客さまと向き合うわれわれには、変わりゆく世の中の動きやお客さまのニーズをキャッチできる強みがあります。だからこそ、JR東日本グループへ発信し続けるのも大切な使命だと考えています。

阿部 ビルテックの強みは、30年以上にわたる施設管理業務で積み上げた「データ」と現場の「ノウハウ」です。これらをベースに、ますます積極的に提案させていただきます。

今日は貴重なお話をありがとうございました。アトレさまにとって「なくてはならない真のパートナー」であり続けるため、今後も努力を続けてまいります。

株式会社 アトレ

atré

首都圏を中心に20店舗以上の駅ビルを運営。「100の街があれば、100の顔のアトレ」というモットーのもと、ショップの個性と魅力を引き出す「プロデュース型運営」に注力されています。社名はフランス語で「魅力」を表す「attrait（アトレイト）」に由来しているそうです。

DATA

本社：〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4丁目1番18号 恵比寿ネオナート6階
 設立：1990年4月2日
 従業員数：436人（2023年4月1日現在）
 主な事業内容：ショッピングセンターの運営・管理および開発
 HP：https://www.atre.co.jp

ビルテックのチカラ

ビルテックは「ヒト×デジタル」のチカラで、「お客さまに最大の貢献をする総合施設管理事業・エネルギーマネジメント事業のリーディングカンパニー」を目指しています。このコーナーでは、「旬」の技術・サービスをご紹介します。

ビル維持管理



不具合発生時の情報共有～事後報告をスムーズに

OneRepo (緊急連絡・報告アプリ)
ワンレポ

「OneRepo※1」は、三菱電機株式会社※2とビルテックで共同開発した「緊急連絡・報告アプリ」です。

駅ビル等で夜間や休日に不具合等が発生した際、限られた人員で対処しなければなりません。同時に多くの関係者へ連絡し、報告書も提出する必要があります。

「OneRepo」では、こうした現場の課題を解決。情報をスマートフォンなどから関係者へ一斉配信でき、報告や相談、現地への確認依頼など、双方向のコミュニケーションが取れます。また、記録された内容から自動的に報告書が作成されるため、限られた要員の中でも不具合等対処に専念できます。

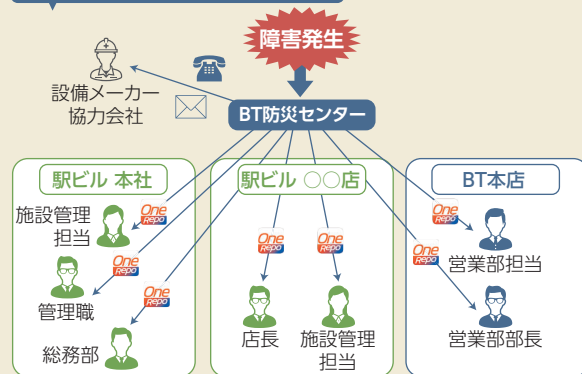
首都圏を中心に、すでに50超の事業所へ展開。多くのオーナーさまから関心をお寄せいただいています。より多くの方々に便利にご利用いただけるよう、進化を続けてまいります。

※1 OneRepo：ビルテックの商標登録です（商標登録番号6496432号）。
※2 三菱電機株式会社：三菱電機グループの通信ICTソリューション企業。



本サービス担当
ビル事業本部 企画部
企画グループ 渡邊 佑亮

不具合発生時、情報を一斉配信



緊急情報の配信は、アラート鳴動

Before: 電話での口頭伝達もしくはメールで確認
After: OneRepoで関係者に一斉通知。概要+写真で確認できます!

配信情報から自動的に報告書を作成



ビル維持管理



ビル受付業務のDX化でコストダウンを実現

无人受付機 (无人受付システム)

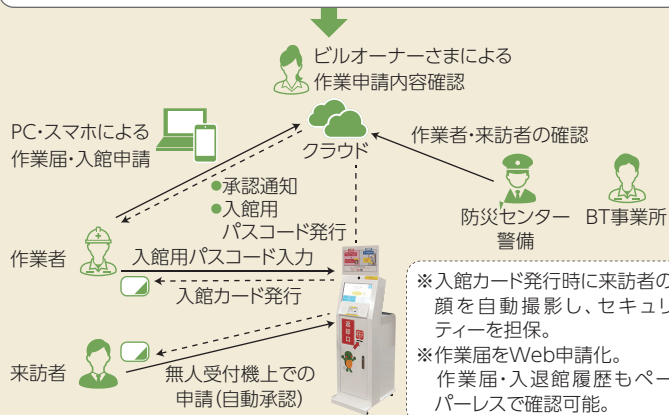
「无人受付機」は、あらかじめ設定（付与）されたパスコードを入力するだけで入館カードが発行されるシステムです。

従来、駅ビル等の受付業務は、警備員が対面で実施するのが一般的でした。来館者には手書きの入退館簿にご記入いただくことで個人を特定し、セキュリティを確保していました。こうした受付業務を、非対面で行うことができるのが「无人受付機」。導入により、入館状況のデータ化や人件費の削減を実現します。



本サービス担当
ビル事業本部 営業統括部
営業第二部 飯田 有俊

Before
●警備員が対面で受付業務を担当。 ●人員確保や感染症対策等に課題。
●来館者情報は手書きの入退館簿で管理。



業務品質向上: ヒューマンエラー防止
人的コスト削減: 人手不足解消にも
感染症対策: 対面の手続きが不要
DX化: 入退館状況をデータで管理



ゼロカーボン



JR東日本所有ビルのオフィス使用全電力を再エネ由来に 「再エネ証書」はビルテックが調達

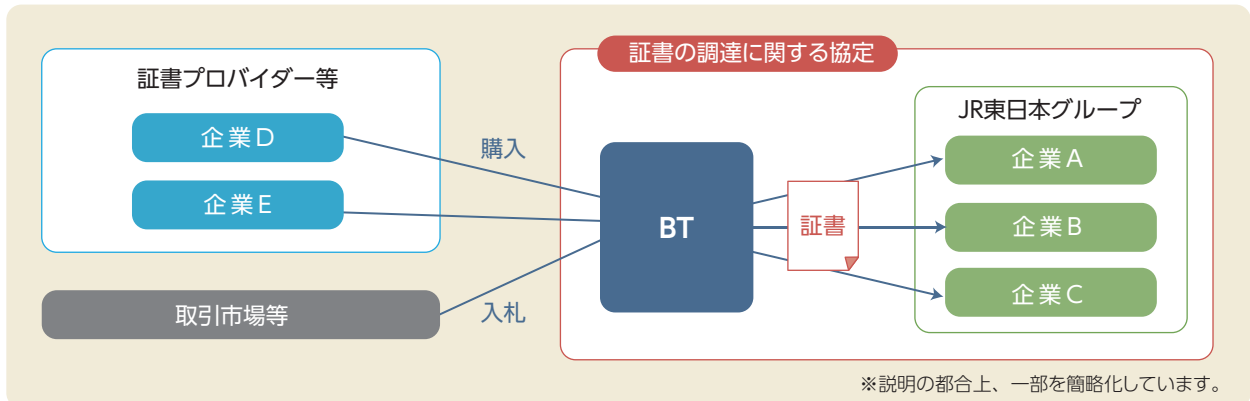
2023年3月30日付のJR東日本プレスリリース「JR東日本ニュース※1」では、2023年度よりJR東日本所有ビルのオフィスで使用される全電力を、実質再生可能エネルギー由来に切り替えることが発表されました。当社は計画段階からこの取り組みに参画。技術本部エネルギーマネジメント部を中心に、再生可能エネルギー証書（再エネ証書）※2の調達業務を担います。

当社は「再エネ価値取引市場における入札」や「証書プロバイダー等との交渉」を通じて再エネ証書を調達し、

JR東日本グループ各社へ提供します。グループ会社間で構築した調達スキームにおける調達業務を当社が一手に引き受けることで、グループとしての効率化、およびコストダウンが可能となります。

再エネ証書にはさまざまな種類があり、使い方や価格も多種多様です。エネルギー関係の専門知識を有する当社はこの取り組みを通じてノウハウを蓄積し、JR東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ2050※3」実現に向けて一層の貢献を目指します。

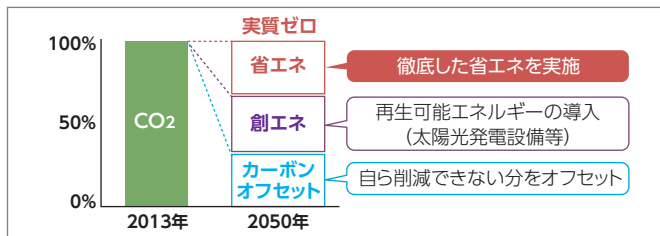
■再エネ証書の調達スキーム



※1 2023年3月30日付「JR東日本ニュース」：https://www.jreast.co.jp/press/2022/20230330_ho03.pdf

※2 再生可能エネルギー証書（再エネ証書）：電力とは別に、再エネ由来の環境価値を「証書」として購入する手法。さまざまな種類があり、この取り組みでは非化石証書等を予定しています。

※3 ゼロカーボン・チャレンジ2050：JR東日本グループの環境長期目標。「省エネ」「創エネ」「カーボンオフセット」を通じて、2050年度のCO₂排出量「実質ゼロ」に挑戦しています。再エネ証書の調達は、「カーボンオフセット」の取り組みの一つです。



本サービス担当

技術本部 エネルギーマネジメント部
コミッションンググループ 市川 晃

ビルテックのエネルギー管理サービス

3つの観点からお客さまのエネルギー管理をトータルサポートしています。

- 省エネ 省エネコンサル**
 - 省エネ簡易診断
 - エコチューニング
 - 設備改修サポート 等
- ESG ゼロカーボン サポート**
 - 環境価値の仲介
 - ロードマップの策定 等
- コンプライアンス 環境法令対応**
 - 省エネ法
 - 自治体条例
 - 環境認証 等

「第2回ビルテックRPAフォーラム」さらなるRPA化に向けて、好事例を共有

5月23日、「第2回ビルテックRPAフォーラム」を開催しました。さまざまな職場でRPA*化による業務効率化が進む中、情報共有を通じてさらなる活用を後押しすることが目的です。本店会議室を会場とし、各拠点へのライブ配信も行いました。

6件の事例発表と、ポスターセッション形式による12職場の取り組み紹介を通じ、多数の好事例が報告されました。また、2022年度のRPA推進に大きく貢献した職場・個人に表彰状が贈られました。

外部講師を迎えた特別講演では、Blue Prism株式会社の柏原さまより日本におけるRPA活用の最新動向や「Blue Prism」の特長についてお話しいただきました。「Blue Prism」の導入支援でお力添えいただいている富士ソフト株式会社の加藤さまからは、他社の好事例をご紹介いただきました。

※RPA

Robotic Process Automation(ロボティック・プロセス・オートメーション)の略。人が行うPC上の定期的な作業をプログラミングし、ソフトウェア型のロボット(デジタルワーカー)に代行してもらう自動化の技術。

●事例発表



日々の業務を見直し、RPA化を図ることで労働時間削減、仕事の精度向上につなげた事例が多数報告されました

●パネル展示会



会場内に設けたブースで、各職場が自慢の取り組みをポスターセッション形式で紹介。参加者との活発な質疑応答も行われました。プレゼンの模様はZoomで各拠点にも配信

●特別講演



Blue Prism株式会社
製品戦略本部 本部長
柏原 伸次郎さま



富士ソフト株式会社
ソリューション事業本部
情報ソリューション事業部
DXソリューション部
情報プラットフォームグループ 課長
加藤 信吾さま

●RPA アワード 2022



総合最優秀賞は、2年連続で新潟支店が受賞



Blue Prismを最も効果的に利用した発案者の水戸支店・岡部正徳さんに、Blue Prism賞が授与されました

ビルテックのRPA推進状況

当社では2017年度の試行を経て2019年よりサーバー型RPA「Blue Prism」を本格導入。2020年度に推進チームを発足し、全社を挙げてRPA化に取り組んでいます。各職場からはこれまでに279件の案件提案が寄せられ、すでに161件が稼働中。労働時間の削減効果は約1万9000時間/年に上ります。

当社RPA化の取り組みは、社外からもご注目いただいています。2022年7月にはBlue Prism株式会社さまの「Japan Customer Circle of Excellence2022 Business Value Driver Award」を受賞しました。

イベント

#安全

「安全衛生フォーラム2023」 4年ぶりのフル開催、安全への誓いを新たに

6月14日、当社およびJR東日本ビルテック株式会社安全衛生協力は「安全衛生フォーラム2023」を池袋・ホテルメトロポリタンで開催しました。

コロナ禍の小規模開催を経て、今年は4年ぶりのフル開催。JR東日本さまよりご来賓を迎えたとともに、当社各職場および各地区安全衛生協力会より、安全推進担当者など約200人が出席。「チームビルテックで創る『究極の安全』への進化と変革」をテーマに、事例共有やコミュニケーションを通じて、安全への誓いを新たにしました。



安全衛生協会本部 小澤修一会長のオープニングスピーチ



阿部社長のオープニングスピーチ



安全衛生協会本部 荒石倫光副会長のクロージングスピーチ



安全衛生協会本部 金城正実会計監事のご発声で「ゼロ災コール」

受賞

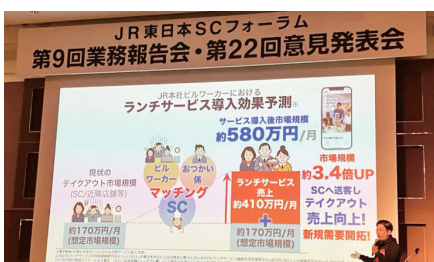
#ビル維持管理

#新サービス

「JR東日本SCフォーラム 第22回意見発表会(本選)」で最優秀賞を受賞

3月17日、ホテルメトロポリタンで開催された「JR東日本SCフォーラム 第22回意見発表会(本選)」で、ビルテックが最優秀賞を受賞しました。SC運営会社以外の受賞は異例のことです。

発表テーマは「ランチ難民を救え! ~コンシェルジュアプリがオフィスの課題を解決する! ~ビルワーカーマッチングサービスによる複合ビルの活性化」。ビルワーカーの「ランチにありつけない」「ランチ仲間がいない」という悩みを「おつかいマッチング」で解決する、スマホアプリのサービスを提案しました。このサービスは「ランチ」をきっかけに、ビルワーカー同士のコミュニティ形成、入居テナントの売上高向上を促し、ビルの活性化につなげることを狙いとするものです。



ビル内のテナント情報共有から、ランチの「おつかい」依頼、ビルワーカー同士のランチ時間・場所調整まで、スマホの専用アプリで完結



発表者のスマートFM推進部・松岡聖史さん(左)、成田健一郎さん。「FM業界のリーディングカンパニー」を目指すBTらしい提案で、最優秀賞を受賞

受注・しゅん功のご紹介

★ ★ ★

BT FIELD Gallery

Open STATION DESK 東京丸の内 間内改良工事(発注代行)



- 場所：東京駅 丸の内地下南口 改札外
- 担当：東京支店 計画部 計画一課
- 主な協力会社：三共装飾工業株式会社、コクヨ株式会社、八重洲電機工事株式会社、株式会社西原衛生工業所 ほか

2022.12

Open JRE Local Hub 燕三条 シェアオフィス開発(改良)(発注代行) / 通信設備新設(発注代行)



- 場所：燕三条駅 2階
- 担当：新潟支店 企画課
- 主な協力会社：第一建設工業株式会社、久住電気株式会社

2023.2

Open 上野駅「拉麺STAND」 自動販売機設置に伴う環境整備工事



- 場所：上野駅 地下3階新幹線コンコース 待合室前
- 担当：東京支店 工事部
- 主な協力会社：株式会社アリガ ほか

2022.11

Renewal JR南越谷社宅 4号棟ほか内装改良その他工事



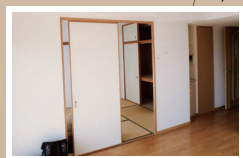
- 場所：埼玉県越谷市
- 担当：大宮支店 工事課
- 主な協力会社：株式会社鈴木工業、株式会社ウェーブゼンケン ほか

2023.3

Renewal 住宅リフォーム工事 設計・施工



- 場所：東京都北区
- 担当：住宅部
- 主な協力会社：エーアール株式会社、渡辺パイプ株式会社、株式会社コバヤシ



2023.4

Renewal 津軽新城駅 駅舎改築工事(実施設計・施工)



- 場所：津軽新城駅
- 担当：秋田支店 弘前事業所
- 主な協力会社：株式会社高杉建設

2023.5

ビルテックにとって「なくてはならない」協力会社の皆さんをご紹介します!

No. 01 管清工業株式会社

東京本部鉄道事業部の18人がBT業務に従事。目黒駅ほか8カ所の汚水槽清掃・点検および引抜清掃作業(昼間・夜間)を担当しています。

弊社では毎月、運輸事業部安全衛生協議会(協力会社、社員)を開催。日々の作業で発生するヒヤリハットを抽出し、安全パトロール実施報告や事故事例などの「現場で生きる情報」として発信・周知しております。

「安全・安定輸送確保」という鉄道特有の現場における役割を理解し、意見を発しやすい、コミュニケーションの取りやすい職場環境づくりを進めております。

今後も安全第一を掲げ、チームビルテックの一員として努めてまいります。



管清工業株式会社
本社：東京都世田谷区上用賀1丁目7番3号
設立：1962年
従業員数：532人(2022年6月30日現在)

No. 02 RB工装株式会社

松戸事業所(所員5人)にて、アトレ松戸店(地上8階・別棟4階)の設備管理業務を、アトレ松戸事業所統括管理のもとで行っています。

日常点検や緊急対応などが日々の業務となりますが、松戸事業所で力を入れているのは「直轄作業」。問題発生時には、協力会社に即依頼するのではなく、所員一人ひとりの経験と知識を生かし、さらには想像力を膨らませ、アトレさまからのご要望にお応えできるよう努めています。

また、中長期修繕計画やエネルギー削減計画などの情報は、チームビルテックで共有。計画的な修繕・改善に努め、アトレ松戸店の安全・安心を守っております。



RB工装株式会社
本社：東京都新宿区若松町33番8号 アール・ビル新宿1階
設立：1953年
従業員数：487人(2023年5月1日現在)

contents

- 02…BT Front Line
 - 駅の「あたりまえ」を守り続ける
——維持管理の技術革新で、さらなるお客さま貢献へ——
- 06…CROSS TALK
 - アトレのこれから そして、ビルテックへの期待
(株式会社アトレ・一瀬会長×阿部社長)
- 10…ビルテックのチカラ
- 12…News & Topics
- 14…BT FIELD Gallery
- 15…We're チームビルテック

Editor's Note
編集後記

『BT FIELD』をお手に取っていただき、ありがとうございます。
本誌はJR東日本ビルテック株式会社の広報誌です。会社の「今」と仕事に対する「誇り」を、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまにお伝えしたい——そんな思いで創刊しました。「BT FIELD」という名前は、弊社が大切にしている「現場(FIELD)」から付けました。表紙の写真、駅舎を点検する弊社社員の姿に気付いていただけたでしょうか? 日々の現場で真剣に、心を入れて、業務に打ち込む社員こそ、弊社の誇りであり、チカラです。
今後もさまざまなFIELDをご紹介しますので、末永くご愛読いただければ幸いです。ご感想やご意見、弊社社員へのエールも、よろしければぜひお寄せください。お待ちしております。
(と)



※この印刷物は環境にやさしい貨物鉄道を使って輸送をしている北越コーポレーション(株)の洋紙を使用しています。



Special thanks to Taku Yamaguchi, Kazuhiro Koga, Asana Nishitoba.

JR東日本ビルテック株式会社 広報誌
『BT FIELD』2023年夏号(創刊号)
2023年7月1日発行

(発行)  JR東日本ビルテック株式会社
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-2-2
JR東日本本社ビル8階
<http://www.jrefm.co.jp/>



(発行人) 阿部 亮

(編集人) 丸山 信博

(編集) 経営企画部 コーポレート・コミュニケーショングループ
佐藤敏彦、渡辺淳子、西田えり

(編集協力) ウィズワークス株式会社

(本誌に関するお問い合わせ)
JR東日本ビルテック株式会社 経営企画部
コーポレート・コミュニケーショングループ
CorpCommun@jrefm.co.jp



©JR東日本ビルテック株式会社
本誌記載の記事・写真の無断転載・複写を禁じます。